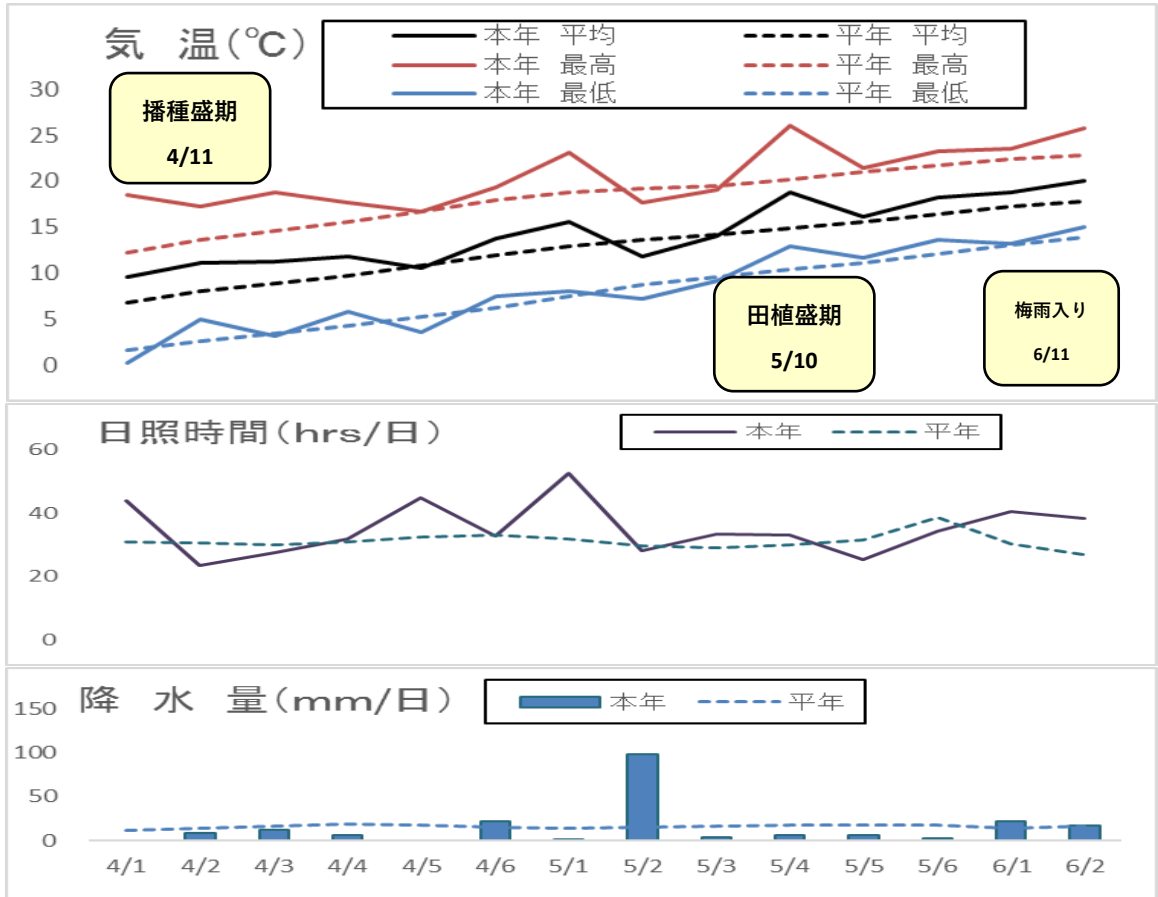


～生育は回復傾向 茎数はやや少ないが 生育ステージは平年並み～

1 令和5年の気象(古川アメダス)



◆6月8日発表 東北地方の1か月予報(6月10日～7月9日までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の前半は気温がかなり高くなる見込み。
- ・向こう1か月の気温は、高い確率70%、平年並みの確率20%、低い確率10%。
- ・降水量は、多い若しくは少ない確率30%、平年並みの確率40%。
- ・日照時間は、多い若しくは少ない確率30%、平年並みの確率40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 06/10～07/09	10 (低い) 20 (平年並) 70 (高い)
		1週目 06/10～06/16	10 (低い) 10 (平年並) 80 (高い)
		2週目 06/17～06/23	10 (低い) 20 (平年並) 70 (高い)
		3～4週目 06/24～07/07	30 (低い) 30 (平年並) 40 (高い)
降水量	東北地方	向こう1か月 06/10～07/09	30 (多い) 40 (平年並) 30 (少ない)
日照時間	東北地方	向こう1か月 06/10～07/09	30 (多い) 40 (平年並) 30 (少ない)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 生育状況（6月9日現在）

(1) 作況試験 5月10日植え ひとめぼれ（宮城県古川農業試験場）

- ・草丈は、22.6cmで平年比88%である。
- ・茎数は、m²当たり252本で平年比88%である。
- ・葉色（葉緑素計の測定値）は、40.6で平年並である。
- ・茎数は平年よりやや少なく、葉数は6.4枚で生育ステージは概ね平年並みである。

移植日	草 丈		茎 数		葉 色		葉 数	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	平年差 (GM値)	本 年 (枚)	平年差 (枚)
5月10日	22.6	88	252	88	40.6	0.0	6.4	▲0.2

(2) 生育調査ほ 県内品種別（各農業改良普及センター）

- ・草丈は27～28cm程度で、平年比95～102%である。
- ・茎数はm²当たり175～196本で、平年比70～113%である。
- ・葉色は36～39程度で、概ね平年並みである。
- 古川農業試験場の「作況試験」や「生育調査ほ」における調査結果から推察すると、5月第2～第3半旬の低温等の影響で分けつがやや抑制されていたが、生育は回復傾向にある。生育ステージは、概ね平年並みと思われる。

品種名	草 丈		茎 数		葉 色	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	平年差 (GM値)
ひとめぼれ	26.9	95	196	84	37.7	▲1.0
ササニシキ	26.8	99	175	70	36.4	▲0.7
つや姫	27.7	102	194	113	38.5	1.4

3 今後の管理

(1) 水管理

- ・分けつが少ないほ場では、低温時には水深5～6cmの深水、それ以外は水深2～3cmの浅水として、水温・地温の上昇を図り、生育(分けつ)の確保に努める。
- ・稲わらなど、未熟有機物が多く施用されているほ場では、硫化水素などの有害なガスが発生しやすい。特に、まとまった降水により長期間にわたって湛水状態にあるほ場では、その傾向が強いので、一時落水して酸素を供給するとともにガス抜きを図る。その後は、浅水と自然落水の繰り返しによる間断かん水を行う。

(2) 病虫害防除【宮城県 農業・園芸総合研究所，病虫害防除所ホームページより】

① いもち病

- ・6月9日の調査時点でも、残苗が放置されているほ場が散見される。まだ残苗での発病は確認されていないが、本田での発生源になるので速やかに処分する。
- ・「葉いもちの感染好適条件の出現状況（BLASTAM）」による推定では、5月29日にかけて準好適条件1（当日の条件は満たしているが、前5日間の平均気温が条件から外れている）が県内広域で出現した（下図）。

- ・ 6月11日に東北地方は梅雨入りしたとみられ、曇雨天の続く日が多くなるので、箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、水面施用剤を防除適期（6月中～下旬）に散布する。

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
5/27	—	—	△	—	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5/28	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5/29	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
5/30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△	△	—	—
5/31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/2	—	—	—	△	—	—	△	△	—	—	—	△	△	△	△	—	—	—
6/3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	△	—	△
6/4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

② 斑点米カメムシ類

- ・ 畦畔や雑草地・牧草地等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の増殖源となる。
- ・ 計画的に草刈りを行い、カメムシ類の増殖を抑制する。
- ・ 水田内にイヌホタルイやノビエ等が多く残草すると、アカスジカスミカメが侵入・増殖して被害が助長される傾向にある。残草が目立つ場合は、中期・後期除草剤で追加防除を実施する。
- ◆ 大型の斑点米カメムシ類「クモヘリカメムシ」が、県南部から北部でも発生が確認されている（下図●印）。本種は、針葉樹林で越冬することが確認されている。今後の発生拡大に注意する（大型のカメムシ類は、籾の内外穎のどの部分からでも貫通して吸汁する）。

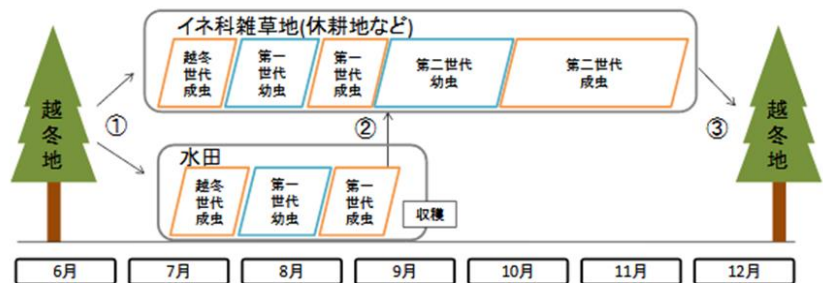


図1 クモヘリカメムシの生活史(模式図)

注1) ①越冬地からの移動 ②収穫によるイネ科雑草地への移動 ③イネ科雑草地から越冬地への移動
 注2) 越冬世代成虫はヒノキなどの樹上(長谷川, 1976), 常緑樹の葉間(名和, 1932)で越冬する。

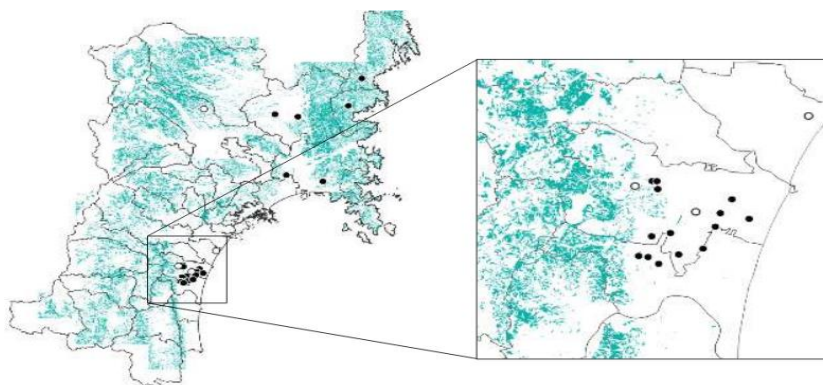


図1 フェロモントラップ設置地点と捕獲の有無(令和元年～2年)

注1) ●: 捕獲あり, ○: 捕獲なし
 注2) 水色の部分は針葉樹林を示す

